

正誤表

このたびは、弊社刊『改訂版 大学入試 世界一わかりやすい 英文法・語法の特別講座』（初刷）の記述につき誤りがありました。お詫びとともに訂正させていただきます。

該当箇所		誤	正
p.75	設問(3) 解説 6～8 行目	ちなみにこれは「クジラ構文の例外」で、no later than March 31 は本来、no later 「まったく遅くない」→「すごく早い」、no ~ than March 31 は「5 月 31 日と同じ」で、「すごく早い。イコール 5 月 31 日」となるはずですが。しかし実際には「5 月 31 日までには・遅くとも 5 月 31 日までに」という期限を表します。	ちなみにこれは「クジラ構文の例外」で、no later than March 31 は本来、no later 「まったく遅くない」→「すごく早い」、no ~ than March 31 は「3 月 31 日と同じ」で、「すごく早い。イコール 3 月 31 日」となるはずですが。しかし実際には「3 月 31 日までには・遅くとも 3 月 31 日までに」という期限を表します。
p.363	STEP2 設問	(3) () に適するものを選びなさい。	(2) () に適するものを選びなさい。
p.438	設問(2) 解説 1 行目	blamed に注目です。blame 人 for～の形にすれば OK です。	blamed に注目です。blame 人 for～の形にすれば OK です。後ろは動名詞の完了形 (having p.p.) です。
	設問(3) 解説 2～3 行目	難問です。blame 人 for～=blame～on 人「～を人のせいにする」です。blame it on her で「それを彼女の上に (on) なすりつける」感じですが。後ろは動名詞の完了形 (having p.p.) です。	難問です。blame 人 for～=blame～on 人「～を人のせいにする」です。blame it on her で「それを彼女の上に (on) なすりつける」感じですが。